



江戸時代からの湯宿帳場の道具

令和六年度第一回企画展

草津から六合へ

冬住みの里モノがたり

令和6年

4/20(土)～

8/28(水)

※6月20日(木)～28日(金)は展示替えのため
企画展をお休みします



草津温泉の竹本義太夫一座

写真提供:冬住みの里資料館

- 開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 木曜日
- 駐車場 博物館敷地内(約20台)
- 入館料 一般200円(160円) 小中学生100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金
※障がい者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料



ミュージゼ / Musée

中之条町 歴史と民俗の博物館
Nakanajo Museum of Folk and History



〒377-0424 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町947-1
TEL 0279-75-1922 URL <https://www.town.nakanajo.gunma.jp/site/myuze/>

草津温泉と冬住みの里

江戸時代から湯治客で賑わってきた草津温泉は、標高1200mの高所にあります。冬になると暖房の設備もなく、積雪が多いために、客足が途絶してしまうことから、草津の人びとは温泉宿を休業して、麓の小雨村や前口村などに戻って生活をしました。旧暦4月8日に温泉開きをし、同年の旧暦10月8日に温泉じまいをしたのです。温泉場から8kmほど下った標高800mの小雨村は比較的暖かく、様々な業種の人が、冬のあいだ酒や味噌、醤油、凍み豆腐などを造り、夏のための準備をしました。この慣行は明治30年まで続き、これを「冬住み」といいました。

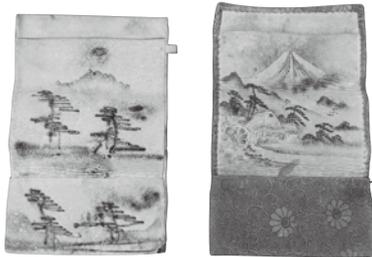
小雨の市川家の敷地内にある二棟の蔵には往時の暮らしぶりを伝えるモノ(資料)が保管されてきました。平成7年(1995年)に開館した「冬住みの里資料館」では、草津で湯宿を営んでいた市川家由来の膨大な資料を展示、公開してきました。今回はそれらの収蔵品の一部を紹介し、全国でも珍しい「冬住み」という温泉文化を辿ってみたいと思います。



冬住みの里資料館(中之条町小雨)

三つ折り布財布(大正時代)

横山大観が描いた「朦朧体」技法の絵画



山本館を訪れた文人たち(大正時代)

最後列右:岡倉天心、中列右:横山大観

著名文人による書画(江戸時代～昭和時代)

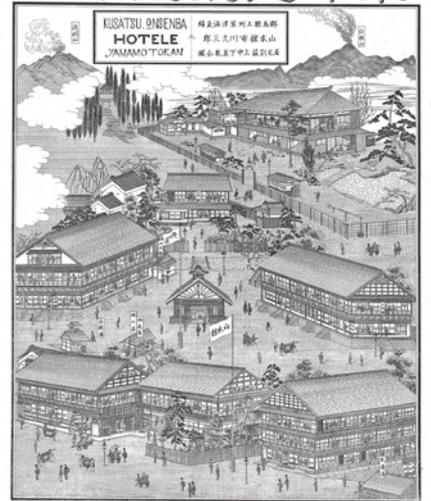
佐久間象山、小林一茶、渡辺崋山の書画など



温泉客をもてなした什器(江戸時代～大正時代)

輪島塗りの漆器や家紋入りの膳台など

草津温泉山本館絵図(明治時代)

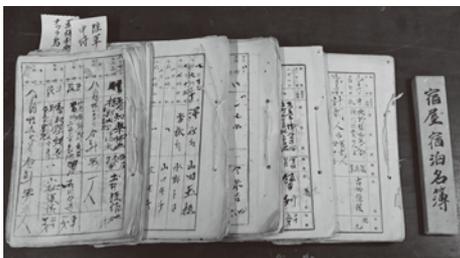


草津温泉山本館絵図(明治時代)

江戸時代後期に山本重右衛門が創業、明治時代に市川久三郎らが合名会社山本館を再興した

山本館の宿帳(明治時代)

アフリカ(ポルトガル領ギニア)の客人も記帳



古書(江戸時代～明治時代)

『草津温泉往来』(十返舎一九、1824年)などの稀覯本

展示内容(展示替えあり)

1. 草津温泉～湯治と冬住み～
2. 市川家(大黒屋)の系譜
3. 老舗旅館・山本館の調度品
4. 草津を訪れた文人墨客
5. 著名文人による書画
6. 湯治客をもてなした陶器や漆器
7. 宿帳、大福帳、古書、暦
8. 冬住みの民具

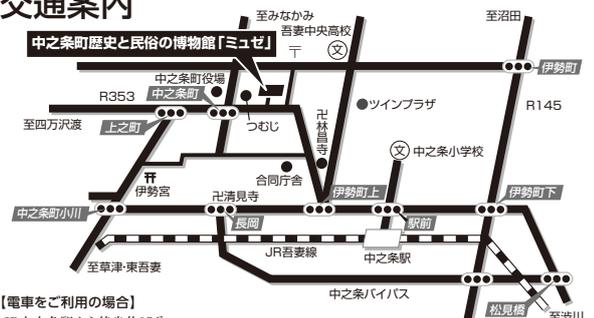
ギャラリートーク(展示解説)

日時 5月25日(土)、7月27日(土)
各回13:15～14:00
講師 山口通喜(中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」館長)
会場 当館企画展示室
定員 先着15名(当日受付)
費用 無料(入館料のみ)

次回開催 吾妻衆真田忍者の実像～Real Ninja～(仮題)

期間 令和6年9月13日(金)～12月11日(水)
関連事業 第7回国際忍者学会大会(吾妻大会)
期間 令和6年9月14日(土)～15日(日)
会場 東吾妻町、中之条町
主催 国際忍者学会(<https://intljinja.com>)
※最新情報はホームページなどでご確認ください

交通案内



【電車をご利用の場合】
・JR中之条駅から徒歩約15分
・JR中之条駅から岡越交通バス(四方温泉行または沢渡温泉行)約5分、「博物館前」下車
【車をご利用の場合】
・岡越自動車道 渋川伊香保ICから約40分(駐車場 約20台)